「コンピテンシー型教養教育の問題と再構築の指針 一高等教育の質保証をふまえて一」

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター 特任准教授 児玉 英明

概要

日時

平成 25 年 10 月 15 日 (火) 14 時 30 分~ 17 時

場所

京都工芸繊維大学 60 周年記念館 2 階 大セミナー室

講師

杉原 真晃 氏 (山形大学 基盤教育院 准教授)

講師略歴

神戸大学卒業後、養護学校(特別支援学校)や 幼稚園教員として4年ほど勤務。その後、京都 大学大学院教育学研究科高等教育研究開発論講座 に入学し、高等教育、教育方法学、教育工学等を 学ぶ。山形大学では、教養教育の方法、FD 論に ついて研究している。

【専攻】

- ·教養教育論
- · 学習共同体論
- ・学習論

【著書・論文】

・杉原 真晃「<新しい能力>と教養 -高等教育 の質保証の中で-」

松下 佳代編『<新しい能力>は教育を変えるか ー学力・リテラシー・コンピテンシーー』 ミネルヴァ書房、2010年

- ・杉原 真晃「現地体験型授業「フィールドワーク共生の森もがみ」のしくみー学習の質の向上と、地域と大学の持続可能な発展を求めてー」 小田 隆治・杉原 真晃編『学生主体型授業の冒険』ナカニシヤ出版、2010年
- ・杉原 真晃「学生の力を「育てる」協働的FD ー山形大学の挑戦ー」 清水 亮・橋本 勝編『学生・職員と創る大学教 育 - FD の挑戦ー』ナカニシヤ出版、2010 年

大学教育において、学生が学問領域の区別なく 身に付けるべき汎用的な能力(ジェネリック・ス キル)の育成が叫ばれるようになった。そのよう な汎用的な能力は、高等教育における学習成果と して経済産業省が提唱する「社会人基礎力」や、 文部科学省が提唱する「学士力」等にも多く含ま れる概念となっている。高等教育の質保証が叫ば れる中、教養教育においても、「どのような能力 を身に付けさせるのか」が議論の主なテーマとな り、教養教育において汎用的能力の育成を目標と した取組が増加している。それは、特にアカデミッ クライティング、情報リテラシー、キャリアデザ イン等、初年次教育が育成の対象とするところに おいて顕著であるといえる。このような、身につ けさせる能力、特に汎用的な能力を重視し、個別 的な社会適応を追求する教養教育(「コンピテン シー型教養教育」と呼ぶ)は、一方で教養教育を より良いものへと再編していく契機となることが 期待される。

しかしながら、物事には光と影が必ず存在する。 コンピテンシー型教養教育をより充実したものと していくためには、その問題点を知らなくてはな らない。本講演では、その問題点を「脱文脈化・ 自己目的化」「適応主義化」「個人化・シミュレーション化」という観点から検討する。それをふまえて、ご参加いただいた方々とともに、教養教育をいかにして再構築していけば良いかについて、意見交換を進められれば幸いである。

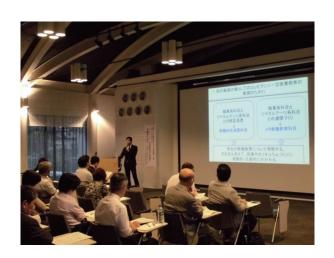
教養教育の再構築を進める際の参考文献として、本研究会では、藤沢令夫「学問の原方向性ー一般と専門の区別をめぐってー」『一般教育学会誌』第12巻第2号、1990年が紹介された。学問の文脈から切り離されて進みつつある今日の教養教育改革の趨勢を再考するうえで、藤沢が示した「プロト・ディシプリナリー(Proto-Disciplinary)」という概念が、参考になるのではないかという主張がなされた。

プロト・ディシプリナリーという概念は、「学問としての原方向性を自覚的に再確保して与える」一般教育のことであり、その原方向性とは、それぞれ個別的な学問分野が「世界がいかにあるかを知ろうとする知の働き」と「その世界の中で自分がいかに生くべきか、いかに行動すべきかを知ろうとする知の働き」が切り離されることなく、相互連関しながら、学問の大本の根として存在するものを指す1。

杉原によれば、プロト・ディシプリナリーな教育は、「何を教えるのか」とともに「なぜ、それを教えるのか」という教育の根源を問うことにもつながるのだという。例えば、蝶の研究をしている生物学の同僚がいるとする。蝶の生態について、教員も学生も深く学んでいるわけだが、「なぜ、蝶の生態について教えるのか」、「なぜ、蝶の生態

について学ぶのか」という、学習の根源を問うことが、プロト・ディシプリナリーを問うことにつながっていく。学問の原方向性を問う、プロト・ディシプリナリーを問うという姿勢は、自分が担当する科目を教養教育としてどのように位置づけるのかを再認識するきっかけにもなる。

コンピテンシーを重視する実践的な教養教育に 欠けているのは、学問のディシプリンである。キャリア教育科目に代表されるようなコンピテンシー 育成科目が教養教育を席巻しているが、そこに「時 代が求める新たな教養教育」の「新しさ」を、過 度に求めることは控えるべきだろう。本研究会の 後、朝永振一郎『物理学とは何だろうか』や佐和 隆光『経済学とは何だろうか』という書物を読み 返してみたくなった。ディシプリンを軽視しては ならない。



¹ 杉原 真晃「<新しい能力>と教養」松下 佳代編『<新しい能力>は教育を変えるか-学力・リテラシー・コンピテンシー』 ミネルヴァ書房、2010 年、131 頁。